



か感じた?」と。その平凡な空
気は、自分も自然の一部なのだ
と実感させてくれた。

「ふ」を。」。9年間もかけ
た解体修理の見分けがつかない
技術の高さに驚嘆した。今は亡
き薬師寺の高田好胤管長が日本
一だと称賛した唐招提寺の金
堂。外見は一切の飾りなし。「唐

絶え間ない光の気配は無意識
の中で広がる。草木深い国東半
島自体が神仏の領域で、その所
々に人間は生かされている。そ
のバランスを千年以上も伝え、
生きる地も人も、本当に偉大だ
と思った。そして、

は唐の国、「招提」
は人々を集めて食
と任の世話をする
という意味。その
鑑真和上の至心と
した形を感じる世
代まで生きられた
ことに感謝! 思わず手を合わ
せた。

国東半島に思う



辻畑 隆子

片っ端から巡った。
富貴寺、文殊仙寺、
真木大堂…、路傍の
仏まで。

3年前、私の死生は身近にあ
った。不安定な精神状態を感じ
ながら、気まぐれに何度も国東
半島を巡る。いかに身近な地を
知らなかったかを思い知る。鳥
の声、風の音、野山の季節の色
が一斉に語り掛けてくる。「何

と出会う(護摩の縁日28日は私
の再生の日と偶然にも重なる)。
その料理は国東半島の素朴な空
気そのもの。余計を足さな
い、素材を生かした味は、あの
鑑真和上の時代の人々に振る舞
ったおせったいもこのような料
理だったのでは?と連想させ
る。

やがて、両子寺で
毎月1度の精進料理

(彫刻家・日出町)